

# オリジナル音楽劇による 保育者の表現力育成に関する一考察

河 野 久 寿

(2014年2月3日受理)

## 1. はじめに

本学幼児教育学科では、平成23年度より選択履修プログラムを開始し、「音楽表現」「造形表現」「身体表現」「言語表現」4分野から学生が1つを選択をして、各分野にて専門性を高め、より高い表現力を養い、実践力のある保育者養成を目指している。幼児一人ひとりの豊かな感性、表現力、創造力の伸長には、保育者自身がそれらの能力を有する事が必要不可欠であり、かつ、更に高めていくために日頃から弛みない努力も必要となる。各分野の集大成として、年度末に「発表会&造形作品展」を開催し、学生が追求してきた「表現力」の成果を、地域の子どもたちや保育教育関係者へ公開する事で、地域社会への貢献を目指している。4分野の1つである「音楽表現」は1回生後期「保育内容（コーラス）」2回生前期「保育内容（キーボード）」2回生通年「表現総合演習」の3つの演習科目で構成され、その中で保育者としての「音楽表現力」、「コミュニケーション能力」、「創造力」、「イメージ力」、「音楽的調和力」、「音楽表現に対する信念」の向上を目的としている。

本稿では、2回生後期90分×15コマからなる「表現総合演習」の平成24年度について筆者が担当した、学生と本学附属幼稚園園児によるオリジナル音楽劇の実践内容、平成25年2月9日(土) ハートピア春江で開催された、発表会&造形作品展の様子、また、そのアンケート結果を踏まえ考察する。

## 2. オリジナル音楽劇実践の意味

選択履修プログラムの「音楽表現」は、1回生後期の「保育内容（コーラス）」で合唱や合奏を、2回生前期の「保育内容（キーボード）」で、キーボード練習や、簡単な作曲、編曲、小規模な合奏などを行い、2回生後期の「表現総合演習」での音楽劇実践に繋げる。最終的には、年度末「発表会&造形作品展」での発表を念頭において、保育者を目指す学生の必要とする力、前述の様々な観点からオリジナル音楽劇という選択に至った。音楽劇とは、はっきりとした定義は無いが、歌や音楽で劇を進めていくものである。演じる過程において、楽器の演奏や歌唱による音楽表現や、ただ歌うだけではなく、動作にて演じる事による身体表現、言葉による言語表現、観る側での視点としてのイメージや、背景画や演技で使う物などの造形表現、全てを必要とする総合芸術である。構想当初よりオリジナルに拘り、編成も役者、合奏、合唱、附属幼稚園園児賛助という事も想定し、筆者が企画、脚本制作の打診、作編曲を行った。本来であれば、学生が脚本から作曲、演奏、演出、ホールとの打ち合わせなど、全てを担当する事が望ましいが、後期の15コマの中では難しく、授業開始までに脚本、歌パート譜、合奏も含めたフルスコア、パート譜、デモ音源、全てを用意した。

オリジナル音楽劇に拘った理由としては、

- ・ゼロから作り上げる過程においてイメージ力、創造力を養う。
- ・歌や楽器など、学生個人個人の得意分野、経験を活かせる。
- ・さらに演奏能力を高める。

- ・ 1つの演目を一人ひとりが各役割で責任を果たしながら全員で作りに上げる意義を感じる。
- ・ 目立つ場面を作りやすい。(度胸をつける)
- ・ 楽器や演奏者など限られた環境の中で最大限の効果を発揮しやすい。
- ・ 園児に適した役を設けやすく、園児との共演によりふれあいの場を提供でき、保育者としての自覚の再確認や、学生に活力を与える事ができる。
- ・ 将来的な学生の実践を期待する。
- ・ 観る側としてもオリジナルは新鮮である。
- ・ 教える側の専門性を活かす。

であり、作曲段階から子どもたちへ向けて学生がどのように「魅せる」「楽しませる」か、という事を意識した。

### 3. 学生の音楽能力について

選択履修プログラム4分野の学生振り分けについては、1回生前期において、学生に希望アンケートを取り、第1希望、第2希望より振り分け、1回生後期より開始する。学生によっては特に音楽が得意ではない学生も、第2希望で記述していたために振り分けられる事もあり、学生の音楽能力には幅がある。本学学生全体の音楽能力としては、本学ではピアノ、または弾き歌いの演習科目として、「器楽Ⅰ」、「器楽Ⅱ」があり、習熟度によって7つのグレードに分けレッスンを行っているが、バイエル初級～上級の1～3グレードの割合が6割強であり、ピアノが得意、または歌が得意という学生は全体としてはそう多くはない。音楽が得意な学生も、音楽以外の分野を希望する事も多々あり、「音楽表現」として特別に音楽が得意な学生が集まっているという訳でもない。ただ、本学に入学する学生の中には、仁愛女子高等学校音楽科より入学する学生や、AO入試にて、音楽に特化した選抜の中で、吹奏楽での経験を活かして入学した学生もあり、それらの学生がこれまでの経験を活かしつつ、さらに保育の現場での実践として繋げていける様に、得意分野を伸ばすための適材適所を心掛けた。

### 4. 平成24年度 音楽劇「いろいろさぎばなし」について

脚本は、筆者知人の峰進也氏に打診。何度か推敲を重ね、脚本完成後作曲を行った。筆者の依頼内容としては、

- ・ 全体が20分程度。
- ・ 曲は10曲程。
- ・ 歌で劇が進行していく様に(オペラ風)。
- ・ 表現者の表現力向上を意識して喜怒哀楽の幅を持たせる。
- ・ パロディタッチ。
- ・ ストーリーは分かりやすく。

である。

まずは、歌パート譜(譜例1)を制作し、それをもとに合奏を含めたフルスコア(譜例2)を制作した。作曲において考慮した点として、歌の中で劇を進行していく事もあり、子どもが歌詞を理解しやすい様に、音価も8分音符以下の音符を極力使用しない事など、劇音楽の基本とも言える、言葉が分かりやすく聴こえる様な旋律を心掛けた。また、1回生通年「音楽」、2回生後期「保育内容(キーボード)」において学生が学んだ、主にハーモニーマニーマニに関する、三和音、七の和音、カデンツなどの基礎和声や、主要三和音を用いたオリジナル歌詞の作曲など、それらの延長線上で、学生の参考となるような曲作りを心掛けた。幼児教育の弾き歌い楽曲の調性は、C dur、F dur、G durが多いが、その他の色々な調性に慣れる様、全体としての調性関係にも配慮した。伴奏となる合奏の構成は、生楽器とキーボードの構成であるが、保育の現場で実践できる様に、生楽器部分もごく一般的なヤマハなどのキーボードに代える事も想定して作曲した。劇には効果音が必須で、分かりやすい音声の効果音を使用することは可能であったが、表現する工夫として、例えば波の音は、柳行李(やなぎごおり)に小豆をいれた波ざるの擬音楽器を使ったり、うさぎのパンチではビブラスラップを使ったりと、子どもが興味を持つ様な、特殊な音の楽器の使用で子どものイメージ力の喚起を意識した。合奏の構成は以下の様になる。オーボエ、クラリネット、トロンボーン、ドラムセット、キー

ボード3台（トランペット、ストリングス、ベース、ティンパニ）、パーカッション（タンバリン、トライアングル、ビブラスラップ、カバサ、ホルツクラップ、波ざる、スライドホイッスル）。

話に出てくる配役は、うさぎ（主役）、お母さんうさぎ、ボス鬼、部下鬼（2名）、カメ、犬、猿、牢屋の番人、村人たち、ナレーター、その他合唱隊。

以下、参考までに大まかなストーリーを説明する。

### 「いろいろうさぎばなし」

場面1-1（楽曲① 4分の4拍子 E dur→F dur）  
月でうさぎとお母さんうさぎが餅つきをしている。うさぎは、月は一面灰色で、餅つきにも飽きたと言い、それなら地球に行きなさいとお母さんうさぎ。地球に行くにはどうしたらいいの？とうさぎが聞く。



場面1-2（楽曲② 4分の4拍子 Es dur）  
遠くに見える鉛筆の様なロケットがあり、ロケットはびゅーんと飛ぶと歌う。（譜例1、2）



場面1-3（楽曲③ 4分の3拍子 F dur）  
そのロケットはアメリカから飛んできて、これに

乗って地球にいつてらっしゃい、とお母さんうさぎは送り出す。うさぎは、地球には色々な色があるのだらうと期待する。

場面2（楽曲④ 4分の4拍子 A dur）  
地球に到着し、色とりどりの花や、様々な動物がいる事に感動する。色々な動物の名前を挙げて歌う。

場面3-1（楽曲⑤ 4分の4拍子 a moll）  
場面は変わり、鬼が登場。鬼はいじめる事が好きで棒でツンツン突いて亀をいじめている。



場面3-2（楽曲⑥ 4分の4拍子 D dur）  
うさぎが登場し、必殺うさばんちで鬼を退治する。亀はお礼を言い、うさぎについていき、地球を案内すると言う。



場面4（楽曲⑦ 4分の4拍子 f moll）  
場面は変わり、ある村で村人たち（附属幼稚園園児）が泣いている。うさぎがなぜ泣いているの？と聞くと、悪い鬼が村を荒らして、村から太郎という若者が鬼退治に向かったが、帰ってこないと言う。うさぎは、太郎を探して、鬼退治に行くと村人に言う。





### 場面5-1 (劇)

場面が変わり、迷子になっている犬と出会う。犬は鬼退治に向かう太郎とはぐれてしまった。犬もうさぎと合流する。

### 場面5-2 (劇)

道の途中、岩山の鉄格子がはまっている場所にいたずら好きの猿が捕まっている。そこには牢屋の番人が立っており、うさぎは牢屋の番人に、2度といたずらをしないのを約束に猿を助ける。猿も鬼退治に合流する。



### 場面5-3 (劇)

鬼は鬼が島に住んでおり、海を渡るのに亀の背中に乗って一同は鬼が島に向かう。



### 場面6-1 (楽曲⑧ 4分の4拍子 c moll)

鬼が島の鬼(ボスと部下2名)が登場。鬼は意地悪する事が仕事で、デパートの前でおもちゃが欲しいとだだをこねてママを困らせたり、歯磨きをしていないのにしたとママにいたり、トイレに行って手を洗わなかったりしたと歌う。



### 場面6-2 (楽曲⑨ 4分の4拍子 a moll→Es dur)

鬼達とうさぎ達の対決。犬と猿が、それぞれ必殺かみつくと必殺バナナブーメランで部下鬼を倒す。うさぎとボス鬼の対決では、必殺うさばんちをボス鬼に跳ね返されるが、お母さんうさぎの月からの助言により、伝説のにんじんソードでボス鬼を倒す。鬼達はもう2度と悪い事はしめんと誓う。



### 場面6-3 (楽曲⑩ 4分の4拍子 F dur)

太郎は鬼に負け捕まっていた。太郎を救出する。

### 場面7 (楽曲⑪ 4分の4拍子 D dur)

村に太郎が帰り、出演者全員でフィナーレ。困っている人がいたら1人じゃ無理かもしれないけれど、みんながいれば大丈夫、力をあわせて助けようと歌い終演。



## 5. 授業の進め方

表現総合演習「音楽表現」分野は、大久保功治教授と筆者で担当している。まず合唱と配役のグ

ループ、合奏のグループに分かれ、5コマ音取りをし、6コマ目より合同練習に移る。9コマ目より、演出担当の坂本流美先生に加わっていただき、演出を含めての合同練習を進めて行く。学生には授業開始時に全体の構成を掴み易くするためにデモ音源をCDで配布している。これは楽譜作成ソフトウェアであるFinaleのプレイバック音源と、Sinsy (Singing Voice Synthesis System、名古屋工業大学で開発されたボーカルシンセサイザー) で、Finaleより書き出したMusicXMLの入力データで作成した歌唱音源を組み合わせたものである。ステージ背景のスクリーン画は学生が制作し、スキャンした。

### 譜例 1 いろいろうさぎばなし 場面1-2 歌パート譜

**いろいろうさぎばなし  
場面1-2**

作詞 峰達也  
作曲 河野久寿

合唱

娘ウサギ

母ウサギ

Piano

PT.

と おく に み え る え ん び つ の よ う な か た ち の も の が わ か る か いー

あ れ は ロ ケ ッ ト と お く ま で と て も は や く と ぶ び ゃ ん と と ん で い

び ゃ ん と び ゃ ん と と ん で い く

び ゃ ん と び ゃ ん と と ん で い く

く び ゃ ん と び ゃ ん と と ん で い く

び ゃ ん と び ゃ ん と と ん で い く

び ゃ ん と び ゃ ん と と ん で い く

び ゃ ん と び ゃ ん と と ん で い く

譜例 2 いろいろうさぎばなし 場面1-2 フルスコア

[illegible]

## 6. 発表会当日の様子について

平成24年度発表会&造形作品展は入場者数591名であった。大勢の観客の前で学生は緊張した様子であったが、本番では練習通りに堂々と演じる事ができた。賛助出演した附属幼稚園園児も立派に演じた。本番終了後の学生は達成感に満ち溢れており、事後の学生アンケートにもその事が反映されていた。

## 7. 発表会のアンケート結果について

発表会当日にお客様アンケートを用意し、入場者数591名に対し、アンケート回収は187枚であった。様々な観点から取り組んだ「表現総合演習」1年目の成果発表会であったが、前述の指導する側の意図に対して、観る側がどのように感じたか、学生の学習成果としては発表会で演じる事が1つの成果であるが、学生の意識がどのように変わったか、発表会時のお客様アンケート、また、発表会後の学生アンケートの結果を抜粋として記し、考察したい。

### 発表会 & 造形作品展 お客様アンケート

Q1 あなたご自身について、お伺いします。  
該当するものを○で囲んでください。

ア. ご年齢は？

① 10代	26名
② 20代	21名
③ 30代	53名
④ 40代	48名
⑤ 50代	21名
⑥ 60代以上	15名
未記入	3名

イ. ご所属は？

① 保護者の方	78名
② 幼稚園や保育所の先生	12名
③ 大学生	4名
④ 高校生	21名
⑤ その他	62名
未記入	10名

ウ. 今日はお子様連れでしたか？

① はい	49名
② いいえ	89名
未記入	19名

Q2 ご覧になった発表を○で囲んでください。  
(複数回答可)

① ステージ発表	184名
② 制作展示	130名
未記入	1名

Q3 ステージ発表についてお尋ねします。

ア. ステージ発表は楽しむことができましたか？

① 非常に楽しかった。	117名
② まあまあ楽しかった。	60名
③ あまり楽しくなかった。	5名
④ 全然楽しくなかった。	0名
未記入	5名

イ. その理由を教えてください。(音楽表現に関するものを抜粋)

①非常に楽しかった	117名
・笑顔が大変良かった。(50代保護者)	
・どれも演じている人が楽しそうだった。(50代保護者)	
・音楽やミュージカルなど多彩だった。(40代保護者)	
・素敵過ぎて感動しました。(20代大学生)	
・子どもが一番良く見ていた。映像があつて分かりやすかった。(30代保護者)	
・音楽性が高く大変良かった。(50代その他)	
②まあまあ楽しかった	60名
・まあまあよかったと思いますが踊りにしても何にしてももう少し振りが大きいといいと思う。声はまあまあ通っていると思う。(50代保護者)	
・展開が早くて見飽きない。(30代保育士)	
・どのステージ発表もよく考えられていた。(20代保育士)	

- ・幼稚園児が出てきて面白かった。  
(20代保育士)

- ③あまり楽しくなかった 5名
- ・ 学生さんの清潔さに欠けた。(30代保護者)
  - ・ わたしがおとなだからかも。(40代保護者)
  - ・ 表現することに恥ずかしそうにしていると全体的につまらなくなる。(10代中学生)

- ④全然楽しくなかった 0名

ウ 特に印象に残った発表があればその発表名を教えてください。

- ・ どれも良かったです「いろいろさぎばなし」は間も空かず総合的に素晴らしかったです。(50代保護者)
- ・ 「いろいろさぎばなし」生演奏と歌 ザ・ミュージカル!。(40代保護者)
- ・ 園児たち。(10代高校生)
- ・ 最後の音楽ステージ。(50代保護者)
- ・ 「いろいろさぎばなし」。生演奏が良かった。(30代保護者)
- ・ 音楽劇「いろいろさぎばなし」演奏も素晴らしく歌も良かった。幼児園児とのコラボも良かった!。(40代)
- ・ 音楽劇が大変良かった。(30代保護者)
- ・ 音楽劇は生演奏のもとミュージカル的で楽しかった。(50代その他)
- ・ 「いろいろさぎばなし」。とてもミュージカルっぽくて楽しくて子どもたちの興味を引いていた。(40代保護者)

その他60名が「いろいろさぎばなし」を挙げた。

#### 学生アンケート (音楽表現分野学生)

Qあなたが今回の発表で学んだことは何ですか?  
(抜粋)

- ・ 歌で表現すること、伝えることの楽しさ、大切さ。
- ・ 音楽劇は設定された内容でも表現の仕方で変わってくる。

- ・ 音楽の楽しさを改めて感じた。みんなで力を合わせて1つの曲に仕上げるのは大変だし素晴らしいと思った。
- ・ それぞれ好きなことや学びたいことに分かれて1つ得意なものを習得することで、なにか得意なことが見つけられると思った。私は音楽でオペレッタをしてドラムとマリンバを演奏した。楽器を演奏するのはとても楽しかった。
- ・ 合奏と合唱合わせてやるのが楽しかったこと。
- ・ みんなで協力して1つの作品を作り上げることです。一人ひとりがとても大切な役割を持っていて、誰かが欠けると進めていくことが出来ないということを改めて感じました。
- ・ みんなで協力してひとつの音楽劇を作り出したという協力性。音楽の楽しさ。
- ・ この発表で学んだことは音楽に合わせながらストーリーを劇で伝えることの楽しさです。私は太郎という役で出番はあまり無かったけど、ちょっとした出番を精いっぱいやってみている人に楽しんでもらいたいという気持ちでやりました。
- ・ 音楽表現では楽器担当だったのですが、間違ったところを二度と間違っってはいけないことの大切さを学びました。
- ・ 今回の発表では協調することを学びました。大人数で何かを作るためにはまず一人ひとりが自分の役割をきちんと行い、周りの人たちと協力することが大切だと思いました。
- ・ 歌の歌詞を話をしているように歌うことがすごく大切だと思った。
- ・ 恥ずかしがらずに堂々と表現できるということ。たくさん練習したのにはずかしがっていてももったいないし、観ている側もつまらなく感じてしまうと思ったから。
- ・ 音楽の楽しさを学べたと思います。人の前で発表することはとても緊張するけど、すごく楽しいので、楽しさを知ることができました。あと、コーラスは歌うだけだと思っていたけどみんなに楽しんで貰えるようにちょっとした工夫を考えたりイラストを作ったりと、見



ている人のことも考えて準備することがたいせつだと学びました。

- ・人前に出ても堂々と演じられること、実に来てくれる人を楽しませ、自分たちも楽しみ学んできた成果を出せること。
- ・劇の配役をするのはとても緊張するし、勇気がいることだということ。
- ・みんなが協力して一から作り上げる達成感がありました。大切なことは自分で責任を持ってなにかに取り組むことだと思いました。人任せにしては何も進まないの一人ひとりがしっかりしなければ成り立たないと思いました。
- ・友人と協力し合ってひとつのものを作り上げようとする意欲。私はオーケストラ担当だったのですが誰か一人でも抜けたら成り立たないのでまわりに迷惑をかけないようにという思いから責任感がうまれました。
- ・みんなで協力して作り上げていくことの大切さ。
- ・恥ずかしがらずに堂々と役を演じること。子どもたちに喜んで貰える発表にするためには自信を持って役を演じることが大切だと思う。そして自分が楽しんで劇をすることで見てくれる人も楽しんでもらえると思う。
- ・音楽劇で学んだことは“演じることの難しさと楽しさ”です。音楽劇は初めてだったので歌いながらセリフを言うのが難しかったですが、村人の気持ちになって歌ったり、鬼の気持ちになって歌うことで声色を変えて演じるのが楽しく、現場でも経験すると思われる劇の楽しさを感じることができました。
- ・発表している人が楽しそうだと見ている人も楽しくなるということ。
- ・もっとも大切だと思ったことは、子どもがみて楽しいと思えるものを作ることです。そのためには歌も大きく心を込めて歌い、振り付けはできるだけ大きくしなければいけないと思いました。
- ・私は歌えれば良いと思って選択しました。しかし授業を受けていくうちに、子どもたちの存在も大きくなりました。そして、歌と表情

だけでその歌の歌詞に感情みたいなものがついていて凄いいと思いました。ただ歌うだけなのにこんなに大変なのだと思います。

- ・常に笑顔でいることだと思う。自分が笑顔をだしているつもりでもう少し出してといわれたので大げさにやらないといけないと思いました。みんなで一つのものを作るという大切さを知りました。

Qこのような発表会は保育士または幼稚園教諭になろうとするあなたにとって、どのような力を身につけるものだと思いますか？（抜粋）

- ・人の前に立つという自信。
- ・音楽を使った表現の仕方や、ピアノを自分で簡単にアレンジして弾ける。
- ・みんなの前で発表するという事は保育現場ではよくあることなので、慣れるためにすごくいいと思う。
- ・音楽を身につける事が出来た。
- ・子どもが発表会をする時の手本、発想の手がかりになると思いました。
- ・人前（子どもの前）で堂々と歌ったり話したりする力。
- ・みんなで協力してひとつのものを作り上げていく力。
- ・発表する度胸です。
- ・保育士には人の前に出て何かを話したりする場面が多くあるのでその練習になったと思います。
- ・歌、表現力。
- ・たくさんの人の前で発表することにより堂々と恥ずかしがらずに発表できる力がつくと思う。
- ・子どもの前では笑顔で動くときは大きくすること。子どものモデル。
- ・自分の中の視野、思い、考えなどが大きく広がった。
- ・子どもたちの前でいろいろなことに自身を持ってすることが出来る力を身につけることが出来たと思います。そして、音楽の技術も上げることが出来たと思います。

- ・ こういう表現の仕方もあるのか、いろんな音楽を知り、いろんな歌を知る事ができました。
- ・ 人の前に立つ力。
- ・ 発表会に向けての準備をするために計画、実践できる力。
- ・ 子どもたちの前でも堂々と歌ったりする力。
- ・ 子どもたちの前で笑顔でいること。
- ・ ダンス作りの行程などを知ることが出来た。
- ・ 人前で演奏する力
- ・ 子どもたちを楽しませるためにはどのような工夫をしたらよいか考える力。
- ・ 感性。人前に出ることによって自分の自信に繋がると思った。
- ・ 恥ずかしいという気持ちを慣れることで減らすことが出来たと思います。
- ・ 大勢の前で発表したり発言する度胸を身につけるもの。

## 8. 考 察

今回のオリジナル音楽劇「いろいろさぎばなし」の実践は、1つの演目を「魅せる」ところまで持っていくには15コマという練習時間としては短い中で、学生の演奏能力や負担も考慮しつつ作曲を行ったが、発表会の出来に対して筆者としての評価は、学生はもう少し余力がある、というところである。合奏部門としては、学生の初見力もあり、4コマ目には全ての楽曲の音出しは完了し、配役、合唱部門も音取りとしては早い段階で終了していた。ただ、観る側を意識して、フレーズを感情込めて豊かに演奏する、大きな声で歌う、綺麗な発声、音程を整える、台詞や歌詞を覚える、大きなアクションで演じるには、意識の不足もありかなりの時間を要し、発表会時点での出来も、お客様アンケートの評価としては良い評価をいただけたが、学生の持つポテンシャルから鑑みると、もっと良いものができたのではと考えている。ただ、今回の大きな趣旨である表現力育成という観点では、授業開始時からの経過を辿ると大きな変化をもたらす事ができた。その事は学生アンケートの結果から読み取れる、意識の変化にも表れて

いる。教員が授業のねらいを事細かに説明せずとも、学生一人ひとりがそのねらいを理解し、得べきものを得て、発表会までの過程、また、発表会での発表は大いに意義のあるものになった。授業の1コマ目における音楽劇説明時の学生の反応は、とても面倒くさそうな様子であったが、練習を重ねるにつれ集中力も増し、最終的に発表会を終えて学生は皆口を揃えて、「楽しかった」「また機会があれば音楽劇をやりたい」と語っていた事は筆者としても大変嬉しい事であった。人前で演じる以上は、一人ひとりがパフォーマーであり、そこにはプロもアマチュアもない。観る人をどのように楽しませるか、感動させるかという目標のために努力をする必要がある。保育の現場で子どもの前で演じる時も同様に、子どもに与える影響、教育という事を念頭に置き、子どものために精一杯演じる事が大切になる。精一杯取り組んだ事は必ず形になり、その積み重ねが子どもの成長過程でいい結果をもたらすと考える。いい教育環境は、住み良いまちづくりにおいて大きな意味を持ち、また、都会への一極集中型の時代において、地域に人材を根付かせる意味でも、大きな役割を果たすと信じている。子どものより良い成長において大切なのは「感動」であると考えている。「感動」が人を動かす。「感動」から興味を持ち、憧れから習い事を始めたり、その延長線上としての職業もある。そのような意味で、保育者の責任は大変大きく、保育者自身が「何ができるか」次第で教育する子どもたちが学べることも限られてくる。

今後に向けて、保育者になる一歩手前段階での「表現総合演習」をより有意義なものにするため、オリジナル音楽劇の実践内容を更に深化させ、学生の「人間力」の向上を含め、様々な力を養えるように、授業の進め方や教材そのものを精査しつつ取り組んでいく。

<謝辞> 発表会に際し、本学の教育活動にご理解ご協力いただいた、本学附属幼稚園の先生方、保護者の方々、そして大いに活躍してくれた園児たちに感謝申し上げます。